

静かな空

連絡先 742-2513 山口県大島郡周防大島町森 365 中尾久利 Tel+ Fax : 0820-78-1246

米海軍輸送機 C2 墜落

岩国基地を飛び立った米海軍空母ロナルド・レーガンの C2 輸送機が、11 月 22 日、太平洋上の沖の鳥島附近で、空母に着艦する直前か、離陸した直後かに墜落し、乗員 3 名が行方不明、8 人が救出されたとのこと。小野寺防衛大臣は、



「エンジンの不調が原因ではないか」と説明したそうです。(中国 11.23)

報道によると、同機は着艦直前か離陸直後に海中へ墜落した、ともいわれているので(朝日 11.23)、操縦ミス可能性があります。防衛大臣の説明どおりであると、大島上空を飛行したかもしれません。

同機は岩国基地で離着陸訓練をくりかえし行っていたというから、エンジン不調の C2 輸送機が大島上空を飛んで離着陸訓練をしたことが考えられます。事故をおこしたのと同型の米軍機は、大島上空を飛行しないで島と島の間の海上を飛行するように、周防大島町、山口県、岩国市から防衛省と米軍に申入れをすべきです。文珠山で米軍機が墜落した事故を忘れてはなりません。

ちなみに、墜落した C2 機は厚木基地から岩国へ移駐する予定の輸送機だったので、墜落機のかわりに、このところ各地で事故をおこしているオスプレイを持ってくる可能性もあるそうです。

大島中学校屋上に騒音測定器

11 月 29 日、中四国防衛局は、岩国基地への艦載機移駐によって、爆音 W70 を越える予定の大島中学校（西屋代）の屋上に、騒音測定器をとりつけました(中国 11.30)。しかしこれは W 値方式なので、瞬間的な爆音の激しさを表示することはできません。一日平均の騒音値では米軍機 1 機の威圧的な轟音は表示されませんので、これとは別に一回飛行ごとのデシベル値を記録表示できる騒音測定器を別途に取り付ける必要があります。

岩国市は、市民が自分で測定できるように、デシベル値の騒音測定器を一定期間市民に貸し出すことをやっています。一定の騒音度以上の時、日付、時

刻、デシベル値を記録し、定期的にデータをプリントして提供します。希望者は、個人でなく自治会として環境保全課に申し込むことにしています。

町民の生活環境を守る使命のある周防大島町当局も、最優先で騒音測定器購入を検討する必要があると考えます。

ヘリコプター窓枠が小学校校庭へ落下

12月13日、普天間飛行場の近くの小学校の運動場に、米軍ヘリコプターの窓が落下する事故がありました。60年前、沖縄県石川市宮森小学校に米軍機が墜落、児童11名、住民6名死亡という大事故があったので、沖縄県民は震え上がりました。(朝日12.15)。1977年厚木基地でも軍用機が墜落、幼児2名と母親がなくなりましたが、いずれの場合も、飛行士は緊急脱出で無事。今回落ちたのは緊急脱出の窓です。大島でも、窓が落ちたり、飛行士が逃げた無人機が住宅に墜落する事故は充分ありえます。けっして他人事ではありません。

米軍ヘリ あいついで不時着

住民：「日本政府は何もやってくれないでしょ！」

1月6日、沖縄県伊計島の海岸に米軍ヘリUH1が不時着しました。警告灯がついたので急着陸したといいますが、同機は自分で飛び立つことができず、2日後の8日に別のヘリが空中に吊り下げて運び去りました。ところが同じその日、こんどは読谷村のゴミ処分場に米軍の攻撃ヘリAH1が不時着しました。今度も警告灯が点滅したために、着陸したといいますが。

自分で飛び立つことができないというのは、かなり致命的な故障があったことを示しています。機体に故障があったのか、操縦ミスか、機体整備ミスか、まだわかりませんが、日本の空を縦横に飛行している米軍機は、機体、整備、操縦技術のいずれにおいても、とても信頼できるものではないことを見せつけました。またいつ落ちてくるかわからない状態で、普天間第二小学校はいまなお校庭を使用できない状態がつづいています。

小野寺防衛大臣は事故が「多すぎる」と言い。沖縄防衛局は整備点検の徹底を米軍に申し入れたといいますが、米軍が実行したことはありません。

米軍の活動のありかたを定めている「日米地位協定」は「日本国内の基地を使用することを許される」とし、米軍機が「自由に」「飛行場に出入りする」権利を認め、飛行する「路線権」まで保障していますので、砂浜であろうが、ごみ処理場であろうが、日本国中どこでも勝手に使用できるのです。アメリカの占領下にあった時代の制度がそのまま残っていて、米軍は「日本国憲法」によって規制できないので、日本政府は一言も抗議できず、日本の裁判所も「爆音は違法」と判決しながら、飛行停止を命ずることはできません。さらに日本警察は墜落機の処理に手を出すことすらできないのです。文珠山に衝突した時

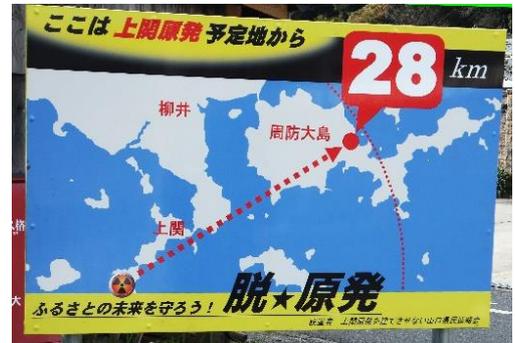
も、米軍機の残骸の処理に、警察は手だしができませんでした。

原発はいらない！声を形に！

私たちは、もの言わぬ民ではない

12月18日に周防大島町日前に上関原発の予定地から28kmの危険な位置にあることを示し、計画中止を求める看板がたてられ、披露されました。

アンケートによれば、県民の60～70%の人々が上関原発はもう建てるべきではないと答えています。にもかかわらず、たとえば、経団連の榊原会長が、昨年12月7日、四国電力の伊方原発を視察して、「将来は増設や新設も選択肢にする」と語るなど、推進側の原発建設へののめりこみは加速されています。新設は上関原発が対象にされています。



原発の可否の決定権は、誰がもっているのでしょうか？民意・県民世論ではないのでしょうか。そういう意味で、県民の声を形にすることが必要だと私たちは考え、県民集会の成功のために寄せられたお金で、全県全域に看板を立てることを決めました。

なぜ、周防大島町が第1号になったのですか？と記者のみなさんから質問されました。予定地から近いからですが、いまひとつの理由は、藤村英子先生の存在です。長年、原発も戦争もない社会を求め、精力的に発言と行動をされ、2017年4月2日に亡くなられ、5月29日に、ご家族と地元のみなさん、岩国基地の増強に反対する岩国市民のみなさんで合同の偲ぶ会が開かれました。その場で看板の計画のことを私が告げると「ぜひ立てよう」と候補地やアイデアが一気に出され、決められました。「もの言わぬ民であってはならない」と身をもって示され、『言いたいことがあるんよ！』という正統2冊の著書を残された藤村先生が、生きてあらわれ指示したかのような決まり方でした。



私たちは、今後も声を形にすることを続けていきたいと思えます。みなさんのご協力をお願い致します。

安藤 公門 (あんど う きみと)

上関原発を建てさせない山口県民連絡会 事務局次長

山の稜線へオレンジ色の光がババーっと

私が生きた日本現代史（その1）

河合建夫 談

藤村友起 記録



2017年11月22日午後、安下庄生まれの河合建夫さんに戦中戦後の体験を語ってもらうインタビューをしました。たけちゃんはお昼にカレーを持ってきてくれて、一緒に食べた後、聞き取りを始めました。時折コーヒーやお茶を飲みつつ、二時間半以上、語ってくれました。たけちゃん、本当にありがとうございました。（藤村）（〈 〉内は聞き手の発言）

☹

〈じゃお願いします。あんまり録音機は気にせず〉

訳のわからん話になってしまうんですが、まずわたしは昭和18年3月20日生まれ、74歳です。わたしが生まれたときに、戦争末期、日本の敗戦が濃ゆうなったときね、わたしの家の前の庭に防空壕掘っておったんです。空襲警報が鳴って。わたしが覚えちよるのはね、畳を全部剥がして一箇所へ積み上げてたんですよ。それと布団を重ねて、そこでわたしがマッチを擦ってたんですよ。〈なんで畳をこんなに重ねていたの？〉

焼夷弾とか爆撃か、炎上したら畳だけでも（笑）救おうとかいう。たしか兄と思うんじゃがね、（火をつけようとした）わたしを後ろから抱え込んで、畳の下の板の上をバタバタバタと。板がぐるぐる回った記憶があるんですよ。

防空壕へわたしは入れられて、母親が階段、ハッチを開けて上を見ながら、「あ！B29が来た！！」ちて叫びよったという覚えがあるんですよ。

もうひとつ大騒ぎがあったような記憶があるんよ。「松の木が光ってるう」ていうてわーわー外が騒がしいんよ（笑）、なに、ホテルが光とったと（笑）。戦々恐々とね。みんなが大騒ぎしよるのを、なんか薄ら覚えで。へたらホテルだったという話。負けえつうんか、B29なんか爆撃に来てたときだけにね。敵が何か落とした仕掛けだったに違いないつうんか、ほれもあったでしょ。

〈みんながビクビクしてた？〉

おう、ビクビク。もうひとつは原爆。前の親戚の家からわたしのところへ道路横断する最中にね、山の稜線へオレンジ色の光がババーっと光ったんですよ。数秒ね。稲光ではない、稜線がパーッと明るく光った。曇ってたような気がするんよ、あの時は。だから余計光が見えたんかもしれんがね。ほいで母親が「ああ、光ったあ！」つうて叫んだのよね。そのあとまあ母親らが、新聞やなんか読んで、新型爆弾ちゅう、そのうち原爆という言葉が出たんでしょうがね。

わたしの十二歳ぐらい年上の姉が久賀女学校行ってたんよ。ほいで、学徒動員で軍需工場、あれは藤生いうたんか、軍需工場に出よってね、キノコ雲見た

ゆう話を姉から聞いたんです。

<たけちゃんが光を見たときには、キノコ雲は・・・>

いや、それは見えなかった。光だけ。藤生からはキノコ雲がバッチリ見えたという話を姉から聞いたんよ。あれが原子爆弾だったんだあつう話を、あとで裏付けられたいうんかね。

ほれからね、玉音放送があるいうて。わたし 2 歳半の時。わたしが台所で茶粥を食べてたんよ。うちの中にだれもいなくなっちゃったんよ。たしか午前中だと思うんじゃけど。「前の親戚の家にいってるに違いない」と、そのまま茶粥と箸を握って、そのおうちに入ったらね、みんなが台所でねラジオ囲んでね、かしこまって聞きだしたんよ。ほしたら、日頃優しかったそこのおじちゃんがね、灰皿をバター！と投げたんよ。わたしやあびっくりしてね、すくんだんですよ。そのおじちゃんの妹さんが「はあー負けた！、戦争に負けたあ！」と言いだしたんですよ。へいで（平生）優しいおじちゃんが、灰皿をばかーんとぶち投げたいう、この身がすくんだっちゅうことですがね。

おやじさんがね、宮崎の方で兵隊に、二度目の召集かかって出てたんですが。天皇の玉音放送からなんち経ったか覚えはないがね、そのおやじが帰ってきて、ランプ、カンテラいうんか、ガラスのタンクへセメントを塗りつけてよ、割れちよるところへ（笑）。おやじが一生懸命灯りを取ろうとして。そういう記憶があったね。

だいぶ大きゅうなってから、宮崎で、天皇陛下の玉音放送があるちゅうんでね、おやじは聞いたと。宮崎で「タコ壺」やら防空壕ばかりを掘ってたんです。本土決戦いうんで。

<タコ壺？>

タコ壺。タコ壺いうんじゃろう、たぶんタコ壺（笑）。兵隊が隠れて、何壕いうんか、兵隊言葉でなにか、漁師の町じゃけえ、タコ壺。

<じゃあ、兵隊さんの中では、もう本土決戦じゃっていう意識で・・・>

命令でね、宮崎が上陸されるだろうつう想定よね。わたしはまるで、見てきたようなウソを（笑）、あの講釈師になってしまいが（笑）。後日聞いたんよ、はあもう何年も経ったあと。宮崎へ 2 度目の召集かかってね、おやじが、わしのような年寄りが召集がかかるようじゃあ、もう日本もおしまいだなあと、思う思う行つたと。天皇陛下の玉音を聞いてね、あとも振り返らず、すっ飛んで帰ってきたと（笑）。（茶を飲む）

うちのおふくろがよう言ってたのがね、一回目の召集の時にね、うちのおやじ殿が階級がね、すいじ軍曹様、すいじ軍曹の肩書じゃったんよ。台所仕事の、食べるほうの炊事軍曹（笑）。うしろに野戦病院つうのがあったん。そこの炊事軍曹殿をやりよつたらしい。

<お父さんは料理とかできたんです？>

いや、当時ですね、うちが醤油屋であったということとね、郵便局長をやり

よったいうことだろうと思うんよ。階級ちゅうんかね、軍隊の。なにかの付度があったかどうかは知りませんよ、付度が。その辺が、軍隊ちゅうのは非常に怪しいちゅうんか。おふくろが言いよったように、戦争から帰ってきたときにね、人はね、げっそり痩せてるのにね、うちのおやじだけは真ん丸になって帰ってきたと。恥ずかしゅうて恥ずかしゅうてて (笑)。

<一度行って、炊事軍曹で、帰ってきたけど、もう一度・・・>

もう一度、2度目の召集かかったんよね。南京上陸。で、暁部隊つう部隊に入っったんじゃが、南京の戦闘があったあと、行ったらしいんでね、とにかく、田んぼのあぜ道に軍馬が累々と死んでたいう話をしてましてね。延々と軍馬が死んでたと。本土からね、樽へいっぱい鯛やなんかを送ってきよったんと。魚の鯛を。塩漬けか何漬けか、そんな贅沢な、氷なんてなかったもんで、たぶん塩漬けじゃろうと思う。患者がよう食べないから、炊事軍曹自ら (笑) 食べたんじゃろうと思う。平常食べたことがないもんがね (笑)。真ん丸になって、恥ずかしゅうて恥ずかしゅうてて (笑)。

<その頃、たけちゃんもひもじい思いとかした？>

いや、それはあったよ。もう戦時中、食料不足で、おふくろにヨチヨチついていっちゃあ、買い出しに行ってたもん。戦後もね。芋を分けてくれゆうて、おふくろが着物と物々交換でね、うん、農家へ行っちゃあ、これだけぶん分けてくれゆうて、ああまったく食糧難じゃったんよ (笑)。

私らは魚、けっこう安く食えたけえ、幸せだったかもしれんね。芋とおかゆ、芋粥いうやつを (笑) それと麦飯食って。

戦争帰りのもんたちね、元戦争へ行って、軍隊入っったいう話はね、だいぶ大きゅうなってから、行っちゃったもんが話してくれるのを聞いた。たとえばわしが手伝いしよった石炭屋のおっさんが、戦地いおったときの話を言いよったが、いまの玉音放送。おい、重大な放送あるから皆集まれ一て、ラジオの前で部隊のもんが聞くんじゃがね、みな分からだった。ひとりだけね「負けたっ！」ちて、「戦争に負けた！」ちていうたんよ。「え、お前は、あれ、わかるんか？」ていうて、たったひとりおったって、ほの部隊のなかで (笑)。帝国がいきなり「負けたー！」ちゅう言葉を使うたら大混乱が起きるちゅうんか、それを予測したから、ちいと勉強したもんじゃあないと分かりにくいちゅう。

<だからあの「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」って、笑>

非常に難解なことばで、勉強したもんじゃないと、あの野蛮な軍隊で、「負けたあ？なにい！」ちてよ、鉄砲撃ちまくるかもしれんじゃん (笑)。なーる、こいつらあ、うわーあ、死ぬまでだますんかやと (茶をすする)。そげな話を聞いたりね。「お前は、あれがわかるんか？」ちて、たったひとりがそれを言うたって、あとはポカーンとしよったつうじゃん (笑)。大本営は考えたねえ。録音するのによよう考えてるねえと。

<戦争が玉音放送で終って、お父さんが帰ってきて、その後の変化とか・・・>

ほうね、うちのおふくろが言ってたが、宮崎から帰ってきた時、おやじがすごい恐ろしかったいうて、気が立ってて。すごく恐ろしかったていいよった。
くちよっと人が変わったようになってった・・・>

まあ敗戦になってね、占領軍に何をされるか分からんというのもあったんでしょうがね。本土決戦とかなんとかて、みな玉砕を叫んでたじゃん。玉砕をね。ほじゃけえ、敵もそうするだろうつげな考え方つか。あれを散々言いよったでしょう、鬼畜米英いうて。

<鬼畜米英といわれとったアメリカ兵を初めて見た時のことは覚えてます？>

小さいころね、アメリカ兵がジープに乗って安下庄に来てから、ほいでガキにチューインガム配り、やりよったのを覚えちよるよ。別にこっちはチューインガムほしくない、鬼畜米英にもらうかいと、いうあれが(笑)ありましてね。鬼畜米英に子供らが群がとった、米兵に。(茶を飲む)

えーと、それから、もひとつは、学校の教科書がね、小学校の時の、いっぱい黒塗りの、黒塗りをした教科書じゃったんよ。うん。

<あの、たけちゃん塗ったのは覚えてる？>

いや、わたしら、文章の内容もわからんけえ、ほじゃけえ親やら先公(先生)が消したと思うんよ(笑)。塗りつぶしちよった教科書じゃったね。

<学校には、天皇陛下の写真とか飾ってあった、あれはどうなったん・・・>

奉安殿ちゅうのがあったんだそうですよね、各学校に。だーいぶあとの話じゃが、もう30年位前の話じゃがね、知り合いのおじさんがね、もと校長と、一杯呑み呑み話したんじゃろがね、教頭が奉安殿から厳かに出す、教育勅語いうんか。あれをね、奉安殿のなかに逆さまに入れちよったと。上下逆さまにいれちよって、わたしゃ奉安殿から、厳かに、白い手袋をへて、タキシードを着て、頭の上へこう掲げて、生徒の前に来て、それをこう厳かに下ろしたら！なんと！！反対に向いとるではないかあ、と(笑)。おお、ほでもものう、逆さまにかえすいうたら畏れ多いじゃろうが！ほのまま、逆さまに読んだ！汗をしっくりかいた、つう(笑)。今だから話そういうて(笑)。神格化いうんか、現人神(あらひとがみ)。

<あ、奉安殿に教育勅語も入ってたんだ>

あとできいた話じゃが、奉安殿が燃えたちゅうて、校長が自殺したりねえ、そういう事件が、奉安殿にまつわる話がいろいろあるんです。いま、マンガみたいな話よ、ね(笑)。逆さまに、ひっくり返して読んだと。教育勅語を。「教頭のバカタレが！、逆さまに収めやがってえ」と(笑)。「今だから話そう」じゃが、バカなことをしよった。神格化つうんかのんた。笑い事じゃありませんよ。校長みたいなそげなひとが、みんな生徒に神様、現人神を教えこむちゅうんかねえ。これを本気でやりよったと思うと、日本が勝てるわきゃあねえよなァと(笑)。(つづく)